

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点(平成29年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成27年に基本計画を策定して以降、認定基本計画に基づき、「魅力あるまちなみづくり」、「にぎわいの創出」といった方針のもと、各事業に取り組んでいるところである。

本市の中心市街地の特徴として、北部の地域では、数多く残る歴史的建造物に観光客が集まり、賑わいを見せている。そのため、今年度も継続して歴史的建造物の保存整備を実施し、魅力ある街並みの形成に努めてきたことで、前年度を上回る観光客が訪れる状況となっている。

また、南部の地域では、商業施設が集積しているといった特徴から、多くの買い物客が集まり、北部地域とは違った賑わいを見せている。この南部地域は、川越駅を中心にして商業地である東口側、業務地である西口側とさらに特徴が分かれており、買い物客による賑わいは主に東口側の状況であった。しかし、川越駅の西口側に立地し、運営開始から1年が経過するウエスタ川越では、大ホールで行われる演奏会等を鑑賞される方、多目的ホール等で行われる各種催しに参加される方等により、これまでにない人の流れができたことに加え、隣接する商業施設には多くの買い物客が訪れるようになってきているところである。

今年度は、ウエスタ川越における「川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業」により、開館1周年記念事業を実施するなど、多くのイベントが実施されており、施設の認知度が高まるにつれて、利用者、来訪者が増え、賑わいが生まれている状況である。イベントによっては、最大で1日に1万4千人にも上る来訪者があり、地域の拠点として賑わいの創出に大きく寄与している。

今後、ウエスタ川越に呼び込むことができた人たちを、業務系のエリアである川越駅西口地区内に立地する商業店舗へ回遊させるための方策を検討する必要があるとともに、他の地域へもどのように回遊させるか検討する必要がある。

2. 平成28年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成28年度の中心市街地の概況としては、入込観光客数が前年を上回るなど、観光客による賑わいは継続している状況にある。この観光客を一番街周辺だけでなく、昭和のまち、喜多院、小江戸蔵里へと回遊させることで、現在、多くの観光客が訪れている観光エリアを拡大させていく必要があると考える。

また、市が実施している観光アンケート調査の中の立ち寄り観光地調査において、観光地点として数値が伸びている氷川神社には、縁結び風鈴のイベントにより若い方が多く訪れていると聞く。若い方の認知度の高さを活かして、このイベントと他地域を結びつけることで、観光エリアの拡大にもつながるものと考えます。

当協議会では、構成員に広く意見を求めており、その意見の1つとして「分科会の設置によりテーマに沿った意見交換を行うことで議論を深めることが必要」との意見をいただいた。そのため、「空き地・空き店舗に関するもの」と「川越駅西口地区のエリアマネジメントに関するもの」の2つの分科会が設置され、それぞれ活動を始めたところである。基本計画に基づく事業の成果とともに、分科会の活動が、中心市街地の活性化につながることを期待したい。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
回遊性 の向上	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	91,882 人 (H26)	110,000 人 (H31)	96,341 人 (H28.5)	①	①
	観光客の立ち寄り観光 地点数	4.27 か所 (H25)	4.50 か所 (H31)	4.30 か所 (H28.5)	①	①
商業・サ ービス業 の活性化	空き店舗数	74 店舗 (H24)	64 店舗 (H31)	75 店舗 (H28.12)	③	③

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### (1) 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）について

指標地点の平日・休日の平均は、96,341人となり、基準値及び前年の数値を上回る結果となった。平日、休日別に通行量の状況を見てみると、前年度と比較して平日では2.0%の増加となり、休日では22.7%の増加となっている。

平日については、前年度と同程度の数値で推移しており、休日については、前年度の減少から回復してきたところである。この休日の増加については、計測日に小江戸蔵里にてイベントが行われたことによる影響があり、中心市街地におけるイベントの集客効果の大きさが伺える。

通行量に関しては、ウェスタ川越や小江戸蔵里などの運営管理事業の効果が表れていることに加え、他の事業も概ね予定どおり進んでいることから、目標達成は可能であると見込まれる。

#### (2) 観光客の立ち寄り観光地点数について

立ち寄り観光地点数は、4.30か所となり、基準値は上回っているものの、前年度結果からは若干、数値が下回る結果となった。本市の代表的な観光地点である上位3地点（「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」）に変わりはないが、いずれの地点も前年度より減少している。

一方、年々増加している氷川神社については、今年度も約5%増加しており、注目を集めているイベントである「縁結び風鈴」によるものと考えられる。

数値は基準値を上回って推移しており、関連する事業も概ね予定通りであることから、目標達成は可能であると見込まれる。

### (3) 空き店舗数について

空き店舗数については、75店舗となり基準値までには至らなかったものの、前年度より空き店舗数が減少する結果となった。各地域ごとの状況を見ると、北部地域と南部地域では、空き店舗は減少しており、北部と南部の間に位置する結節地域では、増加するといった状況である。空き店舗の解消要因としては、テナントの募集を行っていた店舗への出店がほとんどであるが、一方で、空き店舗が取り壊されて更地となったことによる解消も含まれる。この更地となった土地の状況を個々に見てみると、新規出店が見込まれる場所もあるが、住宅用地の計画がある場所などもあり、賑わいの創出に向けて検討する必要がある。

空き店舗数は、今年度においても基準値より増加している結果となったが、前年度からは減少しており、空き店舗の解消に向けた事業成果は、着実に発揮されつつあるものと思われる。今後も、引き続き関連事業に取り組んでいくことで、目標達成は可能と見込まれる。

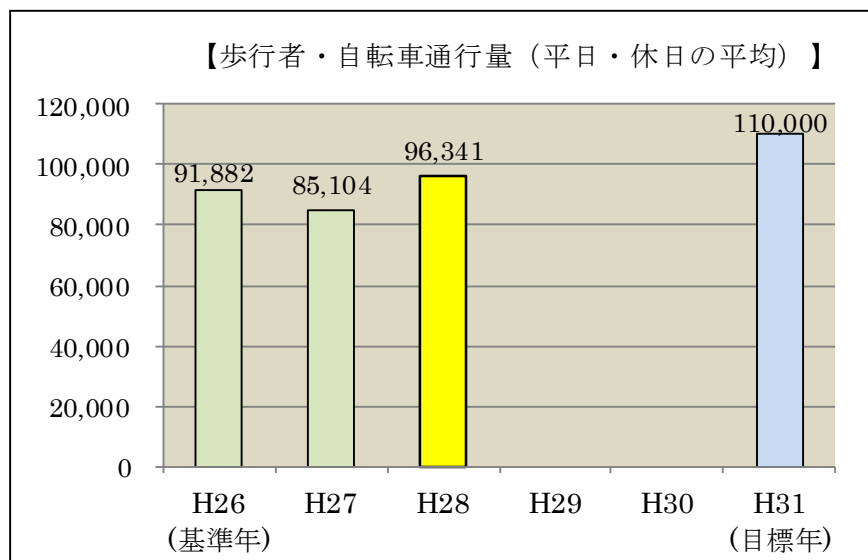
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」※目標設定の考え方：基本計画 P56～P61 参照

##### ●調査結果の推移



年	人
H26	91,882 (基準年値)
H27	85,104
H28	96,341
H29	—
H30	—
H31	110,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車の通行量について、毎年5月下旬の平日及び休日の8地点において午前10時から午後7時までの毎時00分から15分及び30分から45分の各15分間計測し、その数値を2倍し、1時間当たりの通行量を推計

※調査月：平成28年5月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内8地点の歩行者及び自転車の通行量

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 5-2 川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業（川越市）

事業完了時期	平成27年度から【実施中】
事業概要	ウェスタ川越において、市民や近隣市町住民の芸術文化活動の拠点として、良質な鑑賞機会や発表の場の提供、市民の自主的な学習活動の支援、生涯学習の場と機会の提供、男女共同参画に関する各種講座や相談業務等を実施し、これらにより地域住民の活動・交流を促進して、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	ウェスタ川越は開館1周年を迎え、川越駅西口の新たな拠点として知名度が増し、昨年以上に利用者が増えるなど、事業による集客効果が高まっている。 利用者数 (1)文化芸術振興施設 平成27年度 192,931人 (2)市民活動・生涯学習施設 平成27年度 84,231人 (3)男女共同参画推進施設 平成27年度 20,651人 ※:文化芸術振興施設は、平成27年7月より供用開始

②. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座利活用に向けて、所有者・地元関係者・行政が協力し、実施主体や事業計画・整備方針の検討を行った。

③. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するための実施設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、作家や類似施設運営管理者へのヒアリングを行い、求められる機能や施設の管理運営方針・体制等の検討を行った。暫定活用としては、住民主導によるイベントの開催や市民団体による見学会が実施され、かつての物資の集散地川越を今に伝える施設として、当時の賑わいを偲ばせるイベントとなった。当事業による事業効果としては、交流機能を有した施設として、多方面からの交流が期待でき、通行量の増加が見込まれる。

④. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（㈱まちづくり川越）

事業完了時期	平成 22 年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	広場を含めた自主イベントでは、前年度以上の企画を実施したものの、参加者数は前年度を下回る結果となった。しかし、バスによる来場者数は順調に増加しており、賑わいの創出に寄与している。 自主イベント企画数：158 企画(前年+9 企画) 自主イベント参加者数：110,721 人(前年-22,646 人) バス来場数(介護含む)：509 台(前年-16 台) バスによる来場者数：12,182 人(前年+597 人)

⑤. 4-7 伝統的建造物群保存地区保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 12 年度から【実施中】
事業概要	伝統的建造物群保存地区の保存整備を図るため、伝統的建造物の保存修理に対して費用の助成を行うとともに、伝統的な建造物の個別調査を実施し、具体的な修理方法の検討を行う。
事業効果及び進捗状況	本年度は、伝統的建造物3件の修理が行われ、魅力ある町並みの保存、整備が行われ、北部地域は観光客による賑わいを見せている。

⑥. 7-38 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの推進（川越市）

事業完了時期	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	2020 年東京オリンピック競技大会のゴルフ競技が市内で開催予定となっていることから、ハード・ソフトの両面の整備により、「まちの顔」である中心市街地の魅力を高め、国内外からの観光客の誘客を図る。
事業効果及び進捗状況	7 月に大会に向けた取組方針として「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた川越市基本方針」を策定した。また、昨年引き続き、ウエスタ川越を会場としてオリンピックコンサート 2016in 川越の開催や、大会を契機とした市の活性化を図ることを目的として、食と音と灯りの融合や産業フェスタなどのイベントへ出展することにより賑わいの創出にも寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

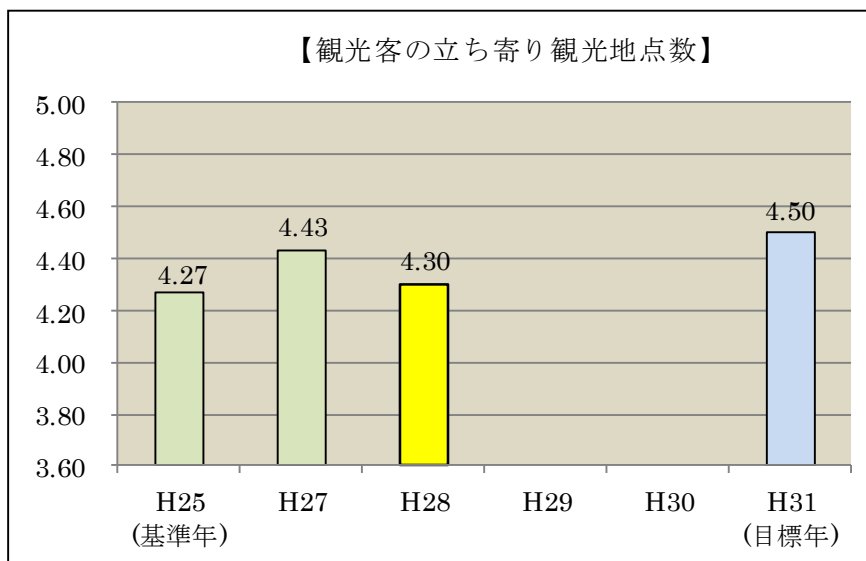
平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均については、前年度を約 11,000 人上回る結果となった。平日、休日ともに増加しており、平日は約 1,500 人（2.0%）、休日は約 21,000 人（22.7%）の増加となっている。

平日の増加に関しては、川越駅西口歩行者デッキが前年に引き続き増加しており、ウエスタ川越での各種催事の効果によるものと考えられる。休日の増加に関しては、多くの地点で増加しており、特に大幅に増えた小江戸蔵里前については、イベント実施によるものと考えられる。前年度の休日調査時については、雨は降らなかったものの午前中が曇り空であったこと、また、隣接市に大型商業施設がオープンして間もない時期であったこと等の要因により大幅に減少したところであったが、今年度は平年並みに回復してきたところである。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、それぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を推進していきたい。そして、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行いながら、事業の進捗状況に応じて、基本計画への事業の追加や修正等の見直しを行っていく。加えて、通行量の増加に寄与する事業であるウエスタ川越や小江戸蔵里などの施設の運営管理事業については、それらの施設の拠点性を高めるための方策を考えていきたい。

「観光客の立ち寄り観光地点数」 ※目標設定の考え方：基本計画 P61～P64 参照

●調査結果の推移



年	箇所
H25	4.27 (基準年値)
H27	4.43
H28	4.30
H29	—
H30	—
H31	4.50 (目標値)

※調査方法：観光アンケート調査（観光客への聴き取り調査）

※調査月：平成27年4月から平成28年3月実施、平成28年5月とりまとめ

※調査主体：川越市

※調査対象：観光客

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座利活用に向けて、所有者・地元関係者・行政が協力し、実施主体や事業計画・整備方針の検討を行った。

②. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するための実施設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、作家や類似施設運営管理者へのヒアリングを行い、求められる機能や施設の管理運営方針・体制等の検討を行った。暫定活用としては、住民主導によるイベントの開催や市民団体による見学会が実施され、かつての物資の集散地川越を今に伝える施設として、当時の賑わいを偲ばせるイベントとなった。 事業地である中心市街地の結節地域では、北部の観光地域と南部の商業

	地域の中に位置し、賑わいに欠けるエリアとなっている。当事業による事業効果としては、結節地域の魅力が高まることで回遊性の向上が図られ、エリア外の観光施設への波及効果もあり、立ち寄り観光地点数の増加が見込まれる。
--	--

③. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（株まちづくり川越）

事業完了時期	平成 22 年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	広場を含めた自主イベントでは、前年度以上の企画を実施したものの、参加者数は前年度を下回る結果となった。しかし、バスによる来場者数は順調に増加しており、賑わいの創出に寄与している。 自主イベント企画数：158 企画(前年+9 企画) 自主イベント参加者数：110,721 人(前年-22,646 人) バス来場数(介護含む)：509 台(前年-16 台) バスによる来場者数：12,182 人(前年+597 人)

④. 4-8 歴史的地区環境整備街路（立門前線）（川越市）

事業完了時期	平成 32 年度【未】
事業概要	歴史的な建造物の町並みが続く地区において、町並みとの調和がとれ、景観に配慮した道路整備を行うことによって、地域の魅力の向上や居住環境を高めるとともに、観光客の回遊性を高める。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度は、沿線の歴史的な建造物である旧鶴川座や旧川越織物市場の整備事業の進捗や、重点地区における歩行者ネットワークの整備方針と合わせ、予備設計を行うとともに、地元自治会、地元商店会、関係部署などと立門前線の整備推進のための先進地視察やワークショップを行った。

●目標達成の見通し及び今後の対策

立ち寄り観光地点数については、前回数値である平成 26 年度の 4.43 か所から今回の数値である 4.30 か所へと 0.13 か所下回る結果となった。本市の観光エリアに位置する代表的な観光地点である「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」の上位 3 地点に変わりはなく、いずれも観光客の 90%以上が訪れている点も昨年と変わりはないが、数値は減少している。

これらの地点の減少要因については、菓子屋横丁での火災のほか、氷川神社のみを訪れる観光客が増加したことが考えられる。菓子屋横丁では、建物の再建も進んでおり、火災翌月は激減した観光客数も戻っており、本市入込観光客数は前年より増加していることから、立ち寄り観光地点の数値も戻ってくるものと思われる。

一方、上位地点の減少要因として挙げた、「氷川神社のみの観光」に関しては、年々立ち寄り観光地として数値が増加している氷川神社において「氷川神社縁結び風鈴アンケート調査」を実施している。この調査結果によると、氷川神社以外の訪問先として、蔵造りの町並みを訪問した観光客の割合は、60.8%、時の鐘は 48.5%、菓子屋横丁は 40.4%となっている。これら上位 3 地点は同じであるが、割合はだいぶ少ないことから、氷川神社のみを目的として川越観光を訪れる観光客は少なくないと推測でき、この点から、全体として観光地点数が減少することにつながっているのではないかと考えられる。

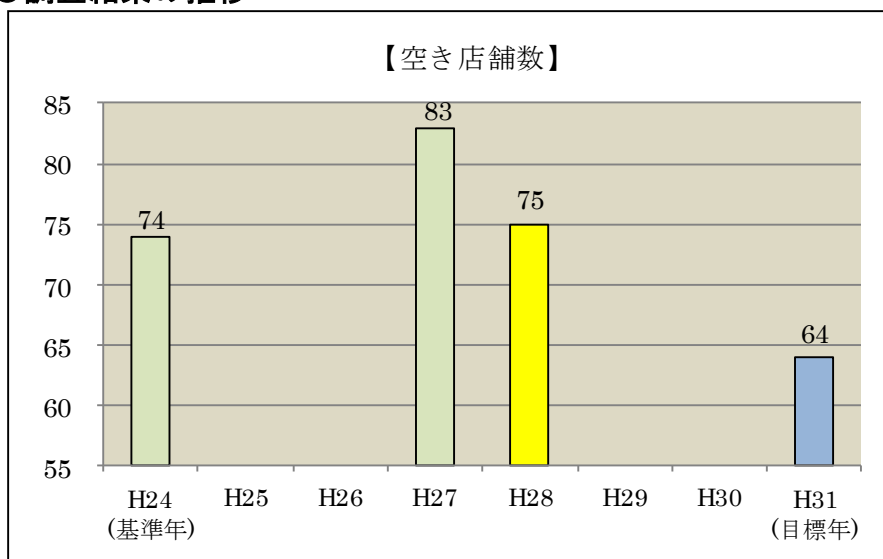


関連事業である川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業では、前年度に引き続き、来館者、売上を伸ばしており、賑わいの創出が図られている。また、旧鶴川座や旧川越織物市場などの施設の活用・整備に関する事業では、地域住民の方々などと連携して事業が進められており、地域が一丸となった町づくりが進められているところである。各施設の魅力が高まることで観光客の立ち寄り観光地の範囲が広がり、目標達成は可能であると見込まれる。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、それぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を推進していきたい。そして、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行いながら、事業の進捗状況に応じて、基本計画への事業の追加や修正等の見直しを行っていく。中心市街地活性化協議会からも意見が出ているが、立ち寄り観光地点として数値が伸びている氷川神社をどうやって他の観光地点と結びつけていくか検討していく必要がある。

「空き店舗数」 ※目標設定の考え方：基本計画 P64～P66 参照

●調査結果の推移



年	店舗
H24	74 (基準年値)
H25	—
H26	—
H27	83
H28	75
H29	—
H30	—
H31	64 (目標値)

※調査方法：現況調査

※調査月：平成 28 年 12 月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	市指定文化財である旧川越織物市場を復原するための実施設計を行った。また、旧川越織物市場を若手アーティストやクリエイターを対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、作家や類似施設運営管理者へのヒアリングを行い、求められる機能や施設の管理運営方針・体制等の検討を行った。暫定活用としては、住民主導によるイベントの開催や市民団体による見学会が実施され、かつての物資の集散地川越を今に伝える施設として、当時の賑わいを偲ばせるイベントとなった。 当事業による事業効果としては、交流機能と文化創造インキュベーション機能の導入が予定されていることから、入居者が一定期間経過後に市内の空き店舗に入居し、独立することで空き店舗の解消が見込まれる。

②. 7-2 チャレンジショップ事業（株まちづくり川越）

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	中心市街地商店街の空き店舗を借り上げて、チャレンジショップとして出店を希望する新規開業者等に貸し出し、経営指導等を行い、独立開業を支援していく。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度の実績として、チャレンジショップへの新規出店は2件であった。なお、平成 27 年度に出店し、平成 28 年度に卒業した2店のうち1店は、中心市街地内に出店予定である。

### ③. 7-12 空き店舗対策事業（川越市）

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	空き店舗情報登録制度により登録された空き店舗を利用した事業に関して、店舗改修費や賃借料を補助することにより、中心市街地に存在する空き店舗の減少を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度の本事業の利用実績としては、中心市街地の区域内で2件、また、区域外になるが区域の沿道において1件の利用があった。

### ④. 7-15 経営力向上・創業等支援（川越商工会議所、パートナー機関）

事業完了時期	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	川越商工会議所のネットワークを活用し、様々な分野のパートナー機関と連携して、中小企業者の経営力向上、新事業展開、事業承継等の課題解決に向けた支援を行う。また、創業希望者を対象とした研修等を実施する。
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な経営課題を抱える事業者に向け、専門家による無料相談・派遣を実施した。相談件数累計62件(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)</li> <li>・創業希望者を対象に、創業スクールを開催した。              創業スクール無料体験セミナー              平成 28 年 6 月 26 日に実施。受講者 24 名。              創業スクール本講座              平成 28 年 7 月 10 日から 10 月 1 日まで、全 12 講座を実施。              受講者 13 名。</li> </ul>

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗数については、前年度の 83 店舗から 75 店舗へと 8 店舗、空き店舗が減少する結果となった。地域別に見ると観光エリアである北部地域と、商業・業務エリアである南部地域では、空き店舗は減少しており、中間に位置する結節地域では増加する結果となっている。

空き店舗の解消要因に関しては、テナント募集を行っていた店舗が埋まるケースが大半を占めている。北部地域、南部地域は、それぞれ観光客、買い物客で賑わう地域のため、立地にもよるが、空き店舗となっても長期間空くことはないものと考えられる。

また、一部の空き店舗については、取り壊され更地となったことで、空き店舗の減少にカウントされた箇所もある。こうした場所を個々に見ていくと、沿道の状況等から店舗としての活用が見込まれる場所もあるが、一方でマンションなどの住宅用地の計画がある場所もあり、賑わいの創出に向けて検討を行う必要がある。

今後は、基本計画に掲載された各事業について、それぞれの実施主体と連携を図りながら、事業を推進していく。特にチャレンジショップ事業については、中心市街地活性化協議会の中に組織された空き地・空き店舗に関する分科会との連携により空き店舗のさらなる解消が図られるものと考えられる。この他、関連事業に継続して取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。